



2020年12月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年4月24日

上場会社名 太洋工業株式会社
 コード番号 6663 URL <http://www.taiyo-xelcom.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 細江 美則
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部長 (氏名) 園部 直孝
 四半期報告書提出予定日 2020年4月30日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 073-431-6311

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期第1四半期の連結業績(2019年12月21日～2020年3月20日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第1四半期	1,044	7.0	36		35		32	
2019年12月期第1四半期	975	4.0	35		20		15	

(注) 包括利益 2020年12月期第1四半期 62百万円 (%) 2019年12月期第1四半期 7百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第1四半期	5.51	
2019年12月期第1四半期	2.59	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年12月期第1四半期	5,219	2,988	56.4
2019年12月期	5,073	3,068	59.6

(参考) 自己資本 2020年12月期第1四半期 2,946百万円 2019年12月期 3,026百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期		0.00		3.00	3.00
2020年12月期					
2020年12月期(予想)		0.00		3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年12月期の連結業績予想(2019年12月21日～2020年12月20日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	2,357	21.7	36		32		17		3.06
通期	4,840	24.2	67		59		34		5.83

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料8ページ「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年12月期1Q	5,872,000 株	2019年12月期	5,872,000 株
2020年12月期1Q	1,782 株	2019年12月期	1,782 株
2020年12月期1Q	5,870,218 株	2019年12月期1Q	5,870,493 株

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済状況は、雇用・所得環境の改善が続く中での緩やかな回復基調が期待されたものの、米中貿易摩擦や消費税増税後の消費マインドの低下、更に新型コロナウイルス感染症による国内外経済への影響や金融資本市場の変動等の懸念から、先行きが不透明な状況で推移いたしました。

当社グループが属する電子基板業界は、5G（次世代通信規格）の本格普及による新たな事業機会の拡大や、車載機器向け高付加価値分野の市場の拡大等により需要は確実に伸長するものと見込まれていたものの、新型コロナウイルス感染症の影響により中国では多くの工場が操業を停止しており、世界的規模で生産・消費活動の停滞が続いております。

このような経済環境の下、テストシステム事業において販売は減少したものの、鏡面研磨機事業、産機システム事業及び電子基板事業において販売が増加したことから、売上高は増加いたしました。

これらの結果、連結売上高は1,044百万円（前年同四半期比7.0%増）と、前年同四半期連結累計期間に比べ68百万円の増収となりました。

損益については、電子基板事業における売上総利益率が上昇したことに伴う影響はあったものの、テストシステム事業における売上高が減少したことや、販売費及び一般管理費が増加したことに伴う影響により営業損失36百万円（前年同四半期は35百万円の営業損失）、経常損失35百万円（同20百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失32百万円（同15百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(電子基板事業)

FPC試作案件の受注減によりディスプレイメーカー及びカメラメーカー向けの販売は減少したものの、新型コロナウイルス感染症の影響で中国における生産活動が停滞し、一部で国内への需要回帰がみられたことによりその他のセットメーカー向けの販売が増加したこと等から、売上高は増加いたしました。損益については、工程内不良の低減を推し進めたこと等に伴う外注加工費圧縮により売上総利益率が上昇したことから、増益となりました。

その結果、売上高612百万円（前年同四半期比1.0%増）、セグメント利益86百万円（同23.7%増）となりました。

(テストシステム事業)

設備投資に対する慎重姿勢が継続する中、国内市場における通電検査機及び外観検査機の販売は増加したものの、前年同四半期は点灯検査装置など大型案件の売上計上があったことから、売上高は減少いたしました。損益については、売上高減少に伴う影響及び高付加価値製品開発に向けた研究開発費等の増加により損失が拡大いたしました。

その結果、売上高230百万円（前年同四半期比11.0%減）、セグメント損失16百万円（前年同四半期は1百万円のセグメント損失）となりました。

(鏡面研磨機事業)

研磨に使用する消耗品の販売及び機械の修理・メンテナンスの受注は減少したものの、研磨機の販売が堅調に推移したことから、売上高は増加いたしました。損益については、研磨機の初号機対応等による売上高外注加工費率の上昇はあったものの、売上高増加に伴う影響により増益となりました。

その結果、売上高127百万円（前年同四半期比87.3%増）、セグメント利益5百万円（同181.0%増）となりました。

(産機システム事業)

中小型ディスプレイ向けの検査治具の販売は減少したものの、産業用ロボット関連の販売が増加したこと等から、売上高は増加いたしました。損益については、製品仕様の多様化等による売上高材料費率の上昇はあったものの、売上高増加に伴う影響により増益となりました。

その結果、売上高74百万円（前年同四半期比75.4%増）、セグメント利益0百万円（同116.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ180百万円増加し、2,898百万円となりました。これは主として、たな卸資産が減少した一方、売上債権が増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ34百万円減少し、2,320百万円となりました。これは主として、投資有価証券の時価が下落したことにより減少したものであります。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ110百万円増加し、1,169百万円となりました。これは主として、短期借入金が増加したこと及び夏季の賞与引当金を計上したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ115百万円増加し、1,061百万円となりました。これは主として、長期借入金が増加したことによるものであります。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べ80百万円減少し、2,988百万円となりました。これは主として、利益剰余金が減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年12月期の第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想については、2020年1月31日発表の「2019年12月期決算短信」からの変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響については、先行きが不透明な状況であり、今後、業績動向を踏まえ修正の必要性が生じた場合には、適切に開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月20日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年3月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,361,756	1,397,979
受取手形及び売掛金	689,423	958,376
商品及び製品	213,056	148,913
仕掛品	324,939	262,053
原材料及び貯蔵品	89,430	99,163
その他	40,083	33,148
貸倒引当金	△461	△692
流動資産合計	2,718,229	2,898,942
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	362,765	357,864
機械装置及び運搬具（純額）	138,404	125,436
土地	1,169,811	1,169,811
その他（純額）	16,122	29,277
有形固定資産合計	1,687,102	1,682,389
無形固定資産		
その他	37,164	34,840
無形固定資産合計	37,164	34,840
投資その他の資産		
その他	636,282	609,979
貸倒引当金	△5,095	△6,332
投資その他の資産合計	631,187	603,647
固定資産合計	2,355,455	2,320,876
資産合計	5,073,685	5,219,819

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月20日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年3月20日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	161,952	149,213
短期借入金	505,912	660,219
未払法人税等	10,385	2,362
賞与引当金	—	53,448
製品保証引当金	1,420	1,398
その他	378,744	302,757
流動負債合計	1,058,413	1,169,398
固定負債		
長期借入金	259,564	372,548
長期末払金	49,156	43,945
役員退職慰労引当金	181,045	181,045
退職給付に係る負債	449,506	457,357
資産除去債務	7,100	7,100
固定負債合計	946,372	1,061,996
負債合計	2,004,786	2,231,394
純資産の部		
株主資本		
資本金	800,757	800,757
資本剰余金	924,057	924,057
利益剰余金	1,215,273	1,165,304
自己株式	△99	△99
株主資本合計	2,939,987	2,890,019
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	62,862	34,050
為替換算調整勘定	23,259	22,204
その他の包括利益累計額合計	86,122	56,254
非支配株主持分	42,788	42,150
純資産合計	3,068,899	2,988,424
負債純資産合計	5,073,685	5,219,819

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年12月21日 至 2019年3月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年12月21日 至 2020年3月20日)
売上高	975,879	1,044,657
売上原価	723,840	781,060
売上総利益	252,039	263,597
販売費及び一般管理費	287,691	299,978
営業損失(△)	△35,651	△36,381
営業外収益		
受取利息	544	441
受取配当金	9	11
為替差益	—	1,033
受取保険金	7,617	162
作業くず売却益	6,711	501
その他	4,087	2,249
営業外収益合計	18,970	4,400
営業外費用		
支払利息	2,321	2,476
債権売却損	1,059	677
為替差損	79	—
その他	173	562
営業外費用合計	3,633	3,716
経常損失(△)	△20,314	△35,697
特別利益		
投資有価証券売却益	322	—
特別利益合計	322	—
特別損失		
固定資産除却損	53	0
投資有価証券評価損	—	2
特別損失合計	53	2
税金等調整前四半期純損失(△)	△20,046	△35,699
法人税等	△3,602	△3,906
四半期純損失(△)	△16,443	△31,793
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,223	564
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△15,220	△32,357

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年12月21日 至 2019年3月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年12月21日 至 2020年3月20日)
四半期純損失(△)	△16,443	△31,793
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,580	△28,812
為替換算調整勘定	2,999	△2,258
その他の包括利益合計	8,579	△31,071
四半期包括利益	△7,863	△62,864
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△7,700	△62,225
非支配株主に係る四半期包括利益	△163	△638

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用の計算については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。ただし、当該見積実効税率を用いて計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報)

前第1四半期連結累計期間(自2018年12月21日至2019年3月20日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	電子基板 事業	テストシス テム事業	鏡面研磨機 事業	産機シス テム事業	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	606,432	259,202	67,837	42,407	975,879	—	975,879
セグメント間 の内部売上高又 は振替高	—	1,560	—	—	1,560	△1,560	—
計	606,432	260,762	67,837	42,407	977,439	△1,560	975,879
セグメント利益 又は損失(△)	69,752	△1,182	2,007	305	70,882	△106,534	△35,651

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△106,534千円には、セグメント間取引消去等2,721千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△109,255千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自2019年12月21日至2020年3月20日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	電子基板 事業	テストシス テム事業	鏡面研磨機 事業	産機シス テム事業	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	612,587	230,618	127,078	74,372	1,044,657	—	1,044,657
セグメント間 の内部売上高又 は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	612,587	230,618	127,078	74,372	1,044,657	—	1,044,657
セグメント利益 又は損失(△)	86,314	△16,962	5,641	661	75,655	△112,036	△36,381

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△112,036千円には、セグメント間取引消去等2,702千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△114,739千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。